

全国統一要約筆記者認定試験

2019年度の全国統一要約筆記者認定試験が、2月16日に行われました。

受験者は、手書き7名・パソコン1名。今年度の試験から新テキスト準拠となりました。



写真は、試験日が迫った2月1日の事前学習会の様子です。この日のサポート担当は、池邊恵子さん。

本番さながらの実技の練習に、皆さん緊張した様子で臨まれていました。皆さんの努力が報われますように。

2019年度全国統一要約筆記者認定試験の準備のため、7月から2回有志で自主学習会を始めました。12月15日には聴覚障害者協会主催の事前学習会が開催され、以後『陽ざしの会』主催の対策学習会が試験前日の2月15日まで毎週行われました。(自主学習会2回を含む)『陽ざしの会』のベテランのサポートを受け、充実した学習ができました。サポート担当のみなさま、お忙しいなかご指導有難うございました。

受験者以外の参加もあり、また中津や豊後大野など遠隔地の方も参加され、熱意あふれる学習会でした。

認定試験は要約筆記者として必要な知識や技術の修練の機会。合格は専門職としての要約筆記者への第一歩です。認定試験対策学習会では、要約筆記技術を2ヶ月と短期間で集中的に勉強できます。認定試験受験者も、受験者以外の方もぜひご参加ください。

(河井 美恵)

試験内容振り返り

今年度は受験生有志で振り返りを行った。

筆記問題：今年度は語群から選択解答する問題はなく、Ⅰ(1)とⅣに文章の中で選択する問題が各5問あった。それ以外は○×問題か記述問題で書く分量が多かった。

対応問題：(1)病院診察のノートテイク。45文字にまとめる。(2)全体投影。講師が動画を使う場合の対応を短文3つ。

実技試験：合成音で開始終了の合図。音が終了して10秒後に「止め」、以後書くと失格と事前説明。開始前に本番と同じ話者、同じ内容のテーマで試験とは異なる部分で音量確認。手書き、パソコンともにレジュメ付き1問、レジュメなし1問。手書きのノートテイク用紙は5枚配布。パソコンは事前にI P t a l kソフトの入ったUSBを配布。今年は介護の問題は出なかった。

携行可能な持ち物は受験票に記載されているので、注意して読みましょう。